

橋本市制20周年記念式典



旧橋本市と旧高野口町が合併し、現在の橋本市が誕生してから20年――。地元の伝統と独自の風土を尊重し、美しい自然と調和する快適な暮らしのためのまちづくりを市民の皆さんとともに進めています。式典では、これまでの市政を振り返るとともに、橋本市出身の音楽家による演奏などが会場を盛り上げ、より豊かなまちづくりの一步を踏み出しました。市制20周年記念式典の様子を記念イベントとあわせて紹介します。

【秘書広報課】

第一部

橋本市は令和8年3月1日に市制施行20周年を迎えました。これを記念し、「橋本市制20周年記念式典」が1月25日、サカイキャニング産業文化会館で開催され、市民や来賓など約650人が出席。市の文化と住民の絆をあらためて感じる盛大なイベントとして開催されました。

第一部は、橋本高校邦楽部が橋本市出身作曲家、冷水乃榮流氏の「桜フラグメンツ」を演奏する美しい音色で幕を開け、続いて同校書道部による書道パフォーマンスが披露されました。息の合った演技の中で未来への希望が感じられる作品が完成し、会場は大いに盛り上がりました。

小原副市長による開式宣言の後、橋本市出身のメゾ・ソプラノ歌手、鈴木彩華氏による国歌独唱、地元合唱団との市歌斉唱が行われ、会場は感動に包まれました。その後、市民憲章の朗読、平木市長や田中市議会議長の挨拶、来賓からの祝辞が続ぎ、市制の節目を祝う中「橋本市20年の歩み」を振り返る映像が上映されました。

第一部の最後には、橋本市出身の音楽家、森本英希氏（フルート）、辻本好美氏（尺八）、大家一将氏（打楽器）、中山直音氏（ティンパニ）、赤星南三子氏（ピアノ）、有馬陽子氏（チェロ）による特別演奏で、冷水氏によってアレンジされた楽曲「唱歌メドレー」「野ばら」「また君に恋してる」「あい」が響き渡り、橋本市ならではの文化と絆を感じる演奏は、来場者に感動を与えました。

市長式辞



平成18年3月1日の新市誕生から、20周年という大きな節目を迎えることができましたことは、苦楽を共にし、一緒に歩んでくださった市民の皆さまのご理解とご協力の賜であること、心より感謝を申し上げます。合併当時は新たな出発への希望や期待とともに、課題も山積していましたが、さまざまな分野で知恵を出し合い、着実に施策を進めてまいりました。

本市ならではの施策を進める一方で、度重なる自然災害や世界を震撼させた新型コロナウイルス感染症の流行、近年の物価高騰への対応など、時代の変化に即した施策も実施し、市民の皆さまと共に真摯に取り組

積み重ねてきた20年であったと確信しております。おひとりおひとりのふるさとへの誇りと市民活動や地域活動の力強い歩みが、橋本市の発展の活力となっております。これからも「笑顔輝く元気なまち」をめざし、市民の皆さまとともに、より豊かな未来への架け橋を築いていきたいと考えております。

今後とも本市に対する更なるご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

橋本市長 平木哲朗

式典で上映された映像を公開しています。また、有名人からの20周年お祝いメッセージなども公開していますので、ぜひご覧ください。



橋本市公式YouTube